




論文審査結果の要旨

報告番号	甲創第 35 号	氏名	嵯峨山 和美
審査委員	主査	山田 健一	
	副査	田中 直伸	
	副査	文井 高	

学位論文題目

Inonotus obliquus (Chaga) 由来の発毛・育毛活性成分に関する研究

審査結果の要旨

本論文は、天然物由来の発毛・育毛剤の開発を目的として、カバノアナタケ科 *Inonotus obliquus* の菌核 (Chaga) に含まれる活性成分の探索、ならびに発毛・育毛活性の評価を行ったものである。

モンゴル伝統薬物の有効利用法の開発に関する研究の一環で得た、Chaga 等が現地で洗髪剤として用いられているという情報に着目し、Chaga の発毛・育毛活性の有無について実験動物を用いて評価し、その抽出液に活性を見い出した。活性化化合物探索のために、Chaga を 80% 水性エタノールで抽出後、毛乳頭細胞増殖促進活性を指標とした成分探索を行ない、疎水性画分に活性を見い出した。続いて、同活性を指標として各種クロマトグラフィーによる分画を行い、10 種の化合物を単離した。それらの化学構造を、各種スペクトルデータの解析により明らかにした。このうち、5 種のラノスタン型トリテルペンが対照薬剤のミノキシジルを上回る顕著な発毛・育毛活性を示すことを明らかにしている。

さらに、Chaga 抽出物とラノスタン型トリテルペンの作用機序について検討し、これらが育毛剤として用いられるステロイドとは異なる機序で発毛・育毛活性を示すことを見い出した。加えて、Chaga より単離したラノスタン型トリテルペンが、発毛に関連する細胞増殖因子の遺伝子発現を促進することを見い出している。

本論文の内容は、新規なものを含んでおり、かつ薬学的に重要である。以上の観点より、本論文は博士論文として適当であると判断する。